はるレシピ
yuri-rei 2013 spring

はるレピ
yuri-rei 2013 spring

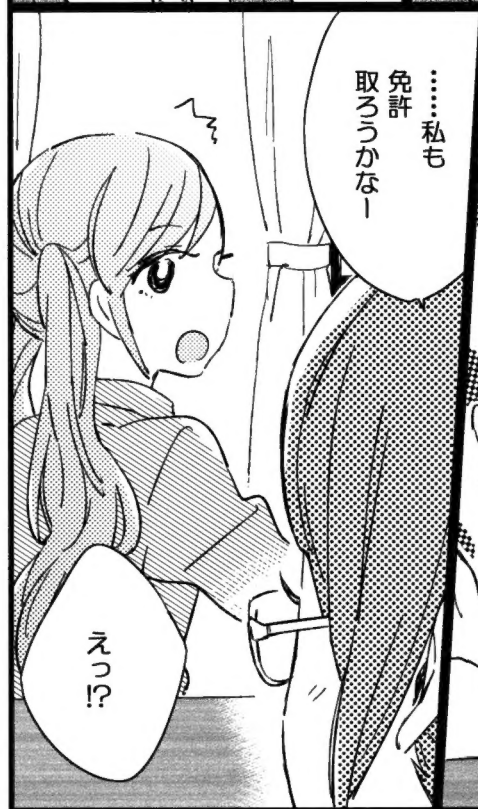
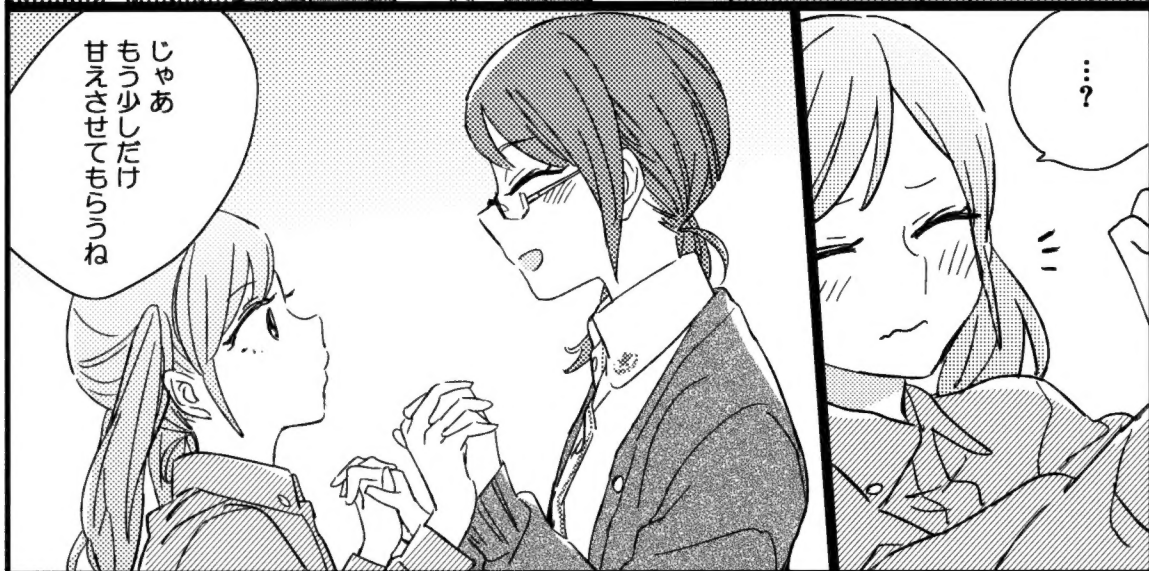
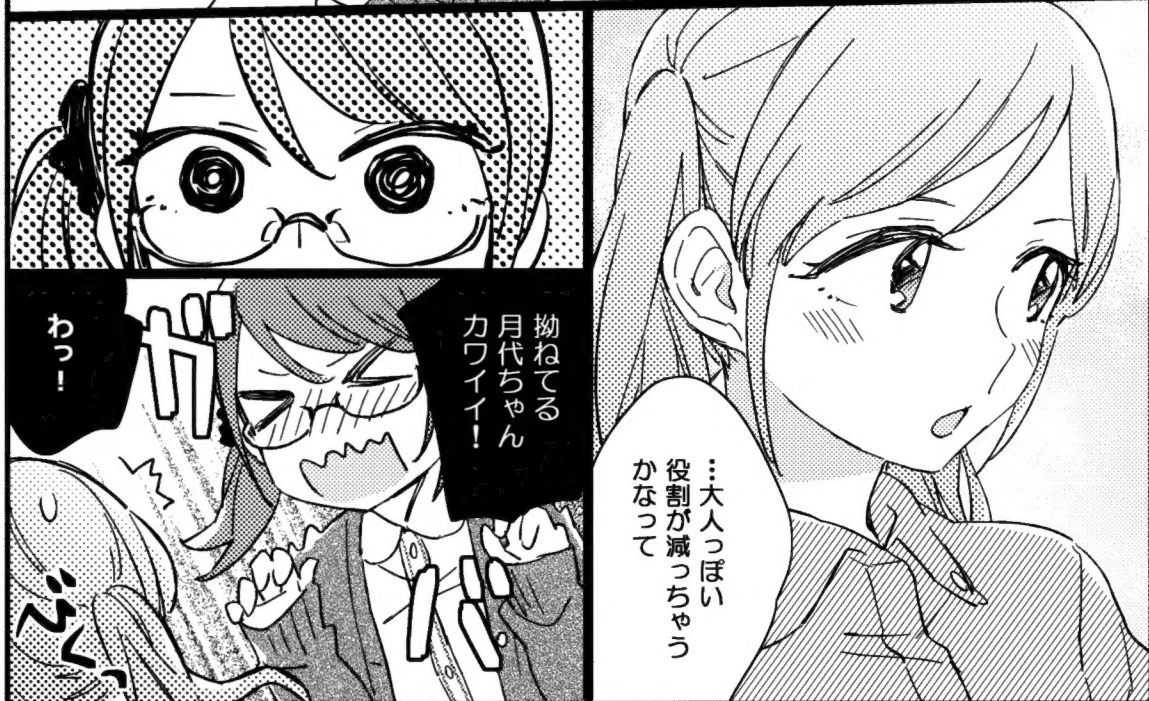
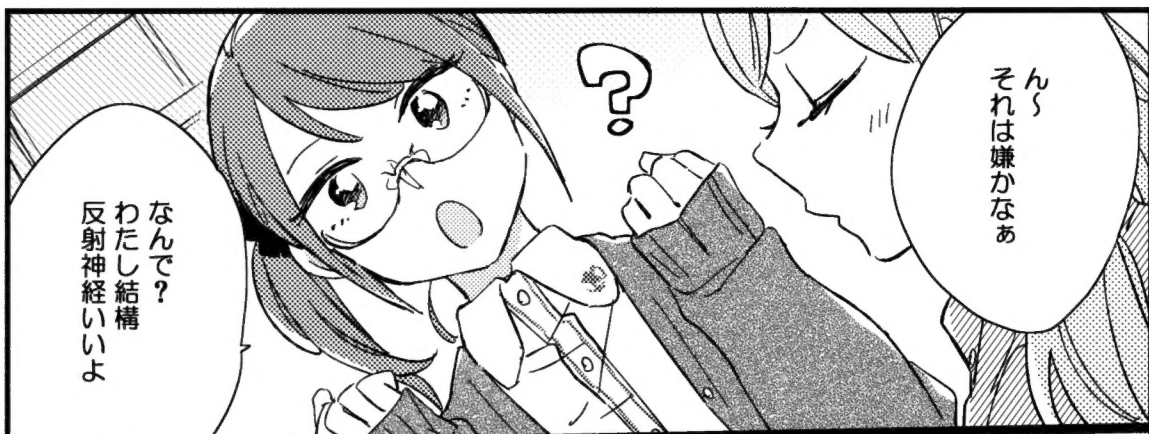
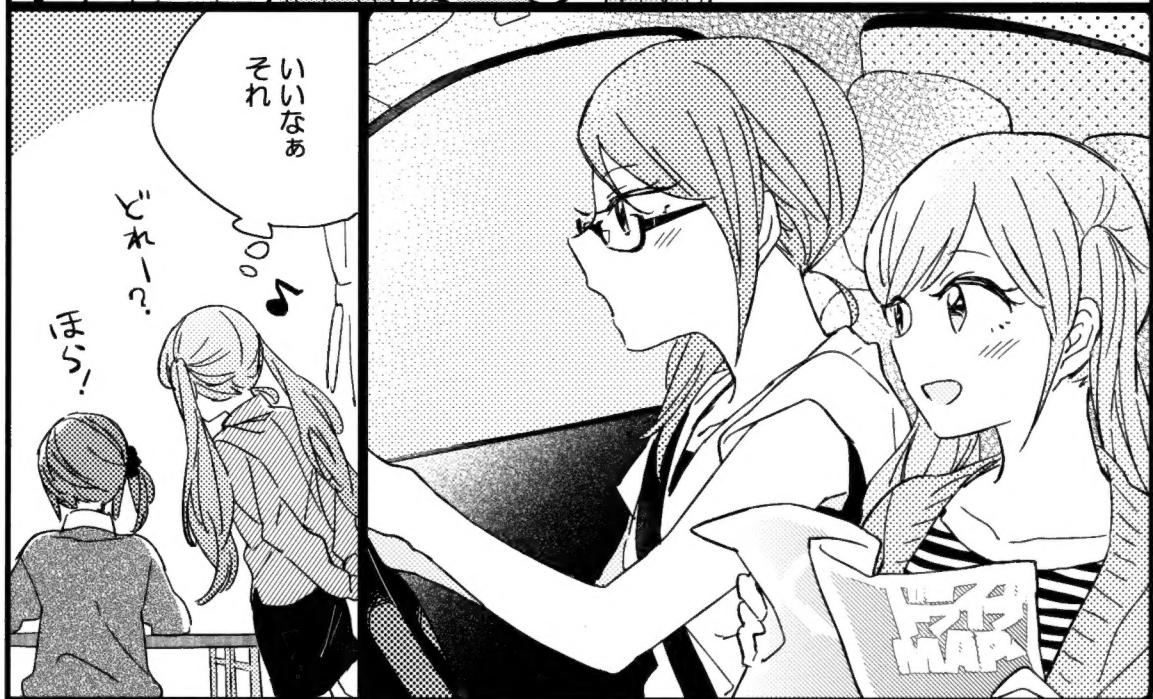
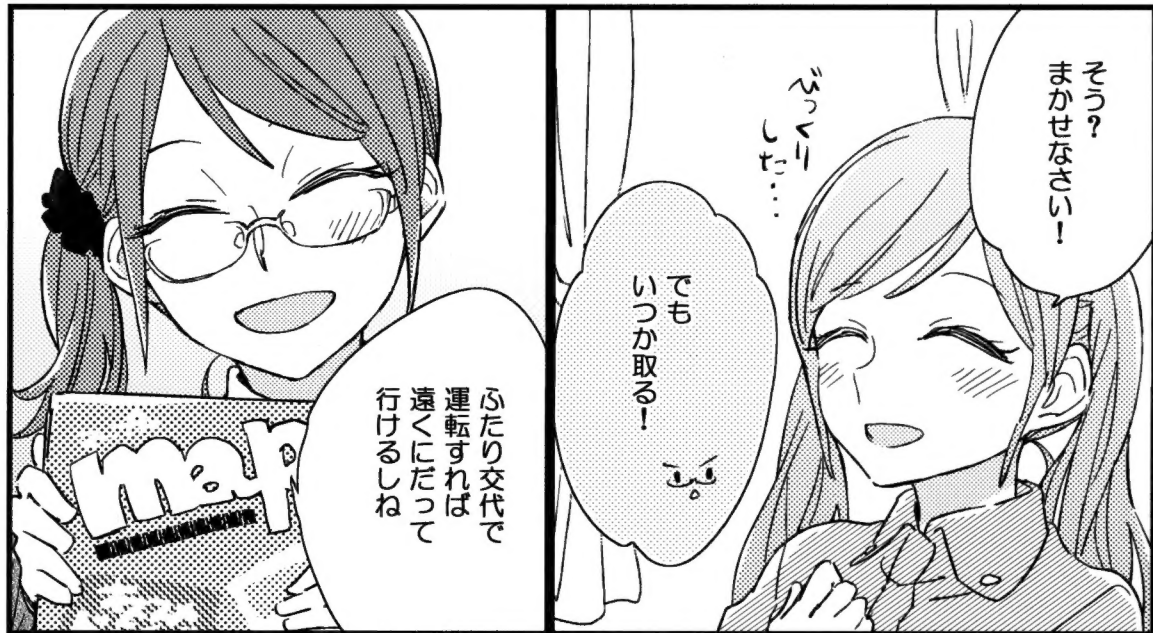
目次

計画

……で
このサービスエリアで
お昼ね
おでかけ!!ドラ
おすすめコース
わさびコロッケ
ってのが
あるんだって
さあ?
それ
美味しいの?
さあって…
でも
楽しみだなぁ
デート
久しぶり
だもんね
頑張って
運転するよー
……私も
免許
取ろうかなー
えっ!?

ん〜
それは嫌かなぁ
?
なんで?
わたし結構
反射神経いいよ
…大人っぽい
役割が減っちゃう
かなって
拗ねてる
月代ちゃん
カワイイ!
ガ
わっ!
ぎ
ぎゅ
…?
じゃあ
もう少しだけ
甘えさせてもらうね

そう？
まかせなさい！
びっくりした・・・
でもいつか取る！
ふたり交代で運転すれば遠くにだって行けるしね
あゆるキャラ載ってるじゃん！
交代で…か
いいなぁそれ
どれー？
ほら！

おしまい

進路調査票
氏名 剣峰桐
希望[月代ちゃんのおよめさん
うーん…
こら
まじめに書きなさい
えー
わりと真面目なんだけどなー
はい新しいの
書き直し!
ん?
サッ
えっと…

花守の庭

睦月たたら

コンコンと、手に持ったシャーペンでノートをつついてみる。でも、やっぱり何も思いつかない。今日の日付と『第8回作戦会議』なんて偉そうに書いてあるだけであとは真っ白なノートのページと一緒。うーん、なんてうなってみても変わらない。三人揃って。

「あー、ダメだ。やっぱりなんにも出てこない」

　5分くらい続いた、うなり声、うめき声？　だけの沈黙を破ったのは、ゆーちゃんだった。もう一人の真由も同時にギブアップ宣言した。

「ちょっと、すぐには出てこないね」

「そうだね」

　うん、わたしもとっくにギブアップしてたし。シャーペンをノートの上に放り出して、頭の中から体中に広がっていた煮詰まっている感じを、背伸びして追い出す。

　春休み中の学校の教室。始業式は明後日だから、当然、わたしたち以外は誰もいない。今日は部活をやってるとこも少ないみたいで、校舎の中はとっても静か。二の丸のグラウンドから、運動部の声がちょっと届くくらい。なんでこんな日に一年生の時のクラスメートだった二人と、教室で頭を悩ませているのかというと……、それは、ノートに書いた議題の通り。で、なんの作戦を考えているのかというと……。

「やっぱり、先に方針を決めないとダメだよね。誰からの支持を集めたいのか、そこのとこ」

「そーだな」

「聖苗は、みんなからって言うけど、やっぱり絞り込んだ方がいいと思う」

「……うん」

　真由の言うとおり、みんなからの支持を集めたいけど、そうもいかないというのが現実みたい。選挙って大変。

　わたしと真由、ゆりちゃんの三人で、今、考えているのが選挙の作戦。新学期になってから一ヶ月ちょっと、5月の半ばに行われる予定の、この学校の学生会長選挙の。

　去年の九星祭の後くらいから、わたしはこの学校、城女の学生会長になりたいって、はっきりと思うようになった。理由、それは、この学校が大好きだから。もっと大好きな学校にしたいし、みんなにこの学校を好きになってもらいたい。そんなところにしたいから。……曖昧なビジョンすぎるってゆりちゃんには言われちゃったけど、だってほんとにそうなんだもの。でも、美紀さんは、わたしらしい、いい理由だって言ってくれた。この二人も、そう言ってくれたけど。

　わたしが、学生会長になってみたいってことを打ち明けたのは、美紀さん以外には3人。

　比奈と、今ここにいる二人。真由とゆりちゃん。

「聖苗のいう、みんなっていうのを、広範な浮動票って考えることもできるけど、ちょっと不確実、だよね」

「え、えっと……」

　真由、飯田真由は図書委員で、夏頃に一回、席が隣同士になった時にいろいろ話をして、気が合った友達。ちょっと古風な感じがするものが好きって自分では言ってて、この学校の奥校舎とかもお気に入り。お気に入りすぎて、そこに堂々と入り浸れるからって理由で図書委員になっちゃうくらい。もちろん、本を読むのも好きみたいだけど、とにかく、そういうところが気の合った理由なのかな。ショートにした髪と眼鏡がけっこう似合ってて、猫娘と座敷童をかけあわせたらこうなる感じ。おとなしそうに見えるんだけど、九星祭の時、図書室が臨時ネットカフェになってた裏には真由の存在があったらしいとか言われるほど、けっこうお祭り好きなとこがある。わたしが会長になりたいって話をした時、作戦会議をしようって真っ先に言い出したのも真由だったし。

「手っ取り早いのは、部活や委員会を味方につけることだよね」
「そ、そう？」
「そう。選挙ってそういうもの」
「でも、味方につけるって、どうやって？」
「例えば、予算を優遇するとか、かな？」
「そ、そんなこと、できるの？」
　な、なんか急に生々しい話になってきた。真由って、こう、なにかに夢中になってる時、みょうに話し方がその、冷たいっていうんじゃないけど、淡々とした感じになるから、いっそう怖い。
「ある程度は。学生会の仕事の一つに、学校側からの部活への予算の分配ってあるし」
「へー、そんなのあるんだ。初めて知った」
　なんだか楽しそうな声で会話に入ってきたのはゆりちゃん。中原悠梨愛。画数の多いとこが気になるとかで、悠梨愛って呼ぶとちょっと不機嫌になる。
「んじゃさ、なるべく強いとこと話つけた方がいいよね。演劇部とか、吹部？　運動部だと陸上部とかか。陸上だったら、比奈に話してみたら？」
　ゆりちゃんは、真由の口調が淡々としてくると、いつの間にか話題に入ってくる感じ。おもしろくなってくるバロメーターだって言ってたことがある。そして、ゆりちゃんはそういうおもしろいことは見逃したくないんだとか。膝をケガする前までは、空手をずっとやってたんだって。ケガでできなくなってからは、とにかくおもしろそうなこと、やってみたいっていつも言ってる。
　わたしが停学させられちゃった後、ゆりちゃんから話しかけてきてくれて、それから仲良くなった。あのことが、ゆりちゃんのおもしろそうにひっかかったっていうならちょっと複雑だけど、つまらなそうにしてる時のゆりちゃんは、どこか怖いというか、近づきにくい雰囲気があるから、まぁいいかな。こうして楽しそうな顔してると、ちょっとたれた目がかわいいのに。長い髪を簡単に束ねてるだけのとことか、素浪人少女って言ったの、確か真由だったはず。

「文化部だったら、まかせてよね。暇つぶしにあちこち見学してたから、けっこう知り合い多いよ、あたし」
「なら、文化部は中原さんにまかせる。狛野さんには、聖苗から話してみる？」
「え？　あ、えっと……」
　確かに……、比奈に言えば、陸上部の人たちは応援してくれるかも。比奈も、わたしが会長選に出るって話した時は、応援してくれるって言ってたし。でも……。

「あ、あのさ」
「ん？」
「やっぱり、その、特定の部活だけとか、そういうの、やめない？」
　真由の言ってること、わかるけど。でも、強い部活だけ応援したら、それはみんなが好きになる学校とはちょっとちがう気がする。二人が応援してくれること、こうして相談に乗ってくれること、作戦を考えてくれることはとてもうれしいけど、最初のスタートを間違えるわけにはいかない。やっぱり、設計と土台、物事はそこが大事なんだし。
「あー、まぁ、聖苗の言いたいこともわかるけど。らしいって言えばあんたらしいし」
「そうなると、やっぱり地道に支持を訴える方向になりそう」
　素直に二人に思ってることを伝えたら、どうにかわかってくれたみたい。でもって、また、最初の問題に突き当たるんだけど。
「そうなると、人気投票と変わらなくなるよね。まぁ、学生の選挙なんてそんなものかも」

「だったら、聖苗はけっこう強いよな。あたしらの学年じゃ知名度あるし」
「……もう」
　不本意な知名度だよね、停学したことがあるなんて。しかも、いつの間にか三年生と大げんかして停学したって話になるし。……ケンカじゃないのに。
「だ、だから、ちゃんと学校をこうしたいってのを訴えて行こうよ。えっと、ほら、古くて素敵な校舎なんだから、保全に努めるとか」
「文化部はけっこう、その古い長屋に苦労してるんだけどな。冬とか、寒くてやってらんないって」
「う……」
　比奈から聞いた話だと、運動部の人たちも雲見櫓の設備の古さには困ってることもあるみたい。あんなにしっかりしていい建物なのになぁ。
「施設の改善を学校側に訴えるというのは、いいかもしれない」
「あ、そういう言い方もあるか」
「あ、あの、建て替えとかはなしで！」
「もちろん、それはなし。でも、エアコンをつけるとか、そういうことは要求できるかも」
「そう、それそれ！」
　三人であれこれ話していることを、ノートに真由が書き付けていく。たぶん、後で読み返してもわからないキーワードの羅列。真由が自分用にメモしてるのを見せてもらった方がいいかもしれないけど、でも、こうして二人と一緒に、目標のために話すのはとても楽しい。話題が行ったり来たり、脱線したり戻ったりしながら、ずいぶんと盛り上がっていたみたいで。
「あら、にぎやかね」
　教室のドアが開いて、声がかけられた。入ってきたのは先生が二人。
「あ、園生ちゃんにニトちゃん」
「こ、こんにちわー！」
　慌てて、わたしも挨拶。

　古文の園生先生は、教えてる学年がちがうから話したことほとんどないけど、学校では人気のある先生。わたしより背が低くてかわいいって人気だから、先生本人がうれしいかどうか謎だけど。仁藤先生は、一年生の時のわたしたちの担任で、気さくで話しやすい先生。
「部活じゃないわよね。なにやってんの、あなたたち」
「あ、えっと、ちょっと会議みたいなことを……」
「会議？」
　別に内緒にしているわけじゃないけど、選挙の立候補の受付とか新年度になってからの話だし、先生にはまだ伝えてなかった。
「はー、学生会長に。牧さん、そんなこと考えてたの」
「え、ええ。がんばってみようかなって」
　な、なんだか、改めて先生に伝えると、ちょっと恥ずかしい。わたしの気合いの入り方とか、そういうとこが、大人の人にはどう見えるんだろう。
「そっか。ま、がんばりなさい。わかんないことがあったら、相談に乗ってあげるわ」
「あ、はい。ありがとうございます」
「ふふ、春休みに集まって作戦会議なんて、すごい気合いの入り方ね」
　園生先生はちょっと笑ってたけど、それもバカにした感じじゃないからイヤじゃなかった。
「しかし、新しいクラスも発表されてないのにねぇ」
「クラス？」
「そ。うちの会長選は、けっこうクラス対抗で盛り上がるんだよ」
「ですね。Ｂ組とＤ組が盛り上がりますよね」
「そ、そうなんですか」
　先生たちが言うには、伝統的に会長選挙が強いＤ組と、近年、追い上げるように会長を出すＢ組で対抗意識があるんだとか。……二年生のクラスでしょ？　毎年人が入れ替わるのに、どうしてそんなことになるんだろう。そこが先生たちも不思議で、おもしろいらしい。
「クラス、か……。それは考えてなかったわ」

「ん、だな。あたし、総合希望で出したから、D組にはならないかな」

わたしも。確か、真由も総合希望だったかな？　確か、総合希望ならA組かB組になるはずだけど。どうしよう、二人とクラスが別れることは全然考えてなかった。一緒のクラスになれたらいいけど、別れちゃったどうなるんだろう。別に問題はないと思うけど。うーん、考えてもしょうがないか。

先生たちが声をかけてくれたのがきっかけで、今日の会議はこれでおしまい。わたしたちは机の上に広げたものをまとめて、教室を出る。

携帯を見て、時間を確認。よかった、ちょうどいい時間。夢中で話してたから、うっかり過ぎてたらどうしようかと思った。

「この後、どうする？　どっか寄ってく？」

「私は、どっちでもいいわよ」

二人とも、帰り道は新町の方。時々はわたしも一緒に付き合ったりするけど、今日はダメ。大事な先約があるから。

※※※

「聖苗」

大事な先約の相手は、校門のすぐそばで、わたしの姿を見つけると、小さく手を振って声をかけてきてくれた。

「美紀さん！　もう来てたんですか？」

わたしは慌てて携帯を見る。時間は、約束の時間にはまだほんのちょっと早い。でも、美紀さんならもう来ててもおかしくないか。

「あ、えーと、こんちはー」

ゆりちゃんの声が、どこか緊張気味なのが、ちょっと新鮮。真由のお辞儀もなんだか深々としてて。あれ、おかしいな。二人とは美紀さん、何度も顔を会わせたことあるのに。

「どうしたの、二人とも」

「え、いや、別に……」

「なんか、緊張してない？」

「だ、だって……」

「するよ、そりゃ。相原先輩、すっごい美人になってんだもん」

「うん……、すごい女子大生って感じ。前とは違う意味で大人っぽい」

ここぞとそんなことを伝えてくる。そ、そうかな？　改めて美紀さんを見てみる。うん、相変わらず、素敵。春らしい柔らかい色のコーディネートで、シャツとジャケットとスカートの組み合わせは確かに女子大生っぽい。こないだパーマかけたって言ってた髪が背中でふわっと広がった感じで、前髪はちょっと伸びてきてて、今日はサイドをバレッタでまとめてる。あ、あのバレッタ、こないだ一緒に買いにいったのだ！

……でも、二人がとまどうほど大人っぽくなってるかな？　より素敵なお姉さんっぽくなってるのは確かだけど……。

あ、そっか、二人とも、私服の美紀さんは見たことないからかな？

「どうしたの？」

あ、さすがに三人、目の前でひそひそやってたら、美紀さんも気になるよね。

「あ、いや、なんでもないです！　えっと、ごめん、それじゃ、わたし……」

「ん、わかってる」

「次は新学期になってからね」

二人にはちゃんと、美紀さんとの約束のことは伝えてある。二人とも、この後、新町で寄り道していくのかな？　どうだろ。真由はまだ、ゆりちゃんと二人だとちょっと緊張するって言ってたけど。二人だけの時って、どんなこと話してるんだろ。黙りっぱなしってことはないよね？

「じゃ、またね」

　そう言って、校門から離れていく二人に手を振る。ゆりちゃんにあわせてゆっくり歩いてく二人の姿を見送って、うん、なんかちゃんと話してるみたい。よかった。

「お待たせしました、美紀さん」

　美紀さんに向き直る。

「こちらこそ、ごめんね。聖苗の予定に割り込んじゃったみたいで」

「ううん、そんなことないです。むしろ、ちょうど学校に来る日に重なってよかったですよ。気にしないでくださいね」

「ふふ、ありがとう」

　いつものやわらかい美紀さんの笑顔。隣で見られるのがうれしくて、わたしも笑顔になってしまう。

　夕べの、いつものおしゃべりの後、美紀さんが学校に行ってみたいと言ったので、急遽、今日のこの学校デートが決まったわけだけど。隣にいる美紀さんが私服ってだけで、急に雰囲気が変わったみたいに感じる。ちょっとドキドキする。美紀さんが卒業するまでは、毎日、一緒に過ごしていた場所なのに。

「不思議ね」

　美紀さんも同じことを感じていたみたいで。周りをゆっくりと見回しながら、つぶやく。

「まだひと月も経ってないのに、懐かしいって思えるわ」

「そう、ですか」

　そういう、ものなのかな。夏休み明けの始業式とか、久しぶりに友達と会うのがうれしくてわくわくするのとは、きっとちがう気持ちなんだろうな。わたしも、二年後になったらわかるのかな。

　二年後、かぁ。進路、どうするんだろう、わたし。美紀さんと同じ大学、受けるとか？　でも、今のままの成績だったら、ちょっと難しいかも。それに、大学で何を勉強したいか、考えてないし。短大？　就職？　そろそろ考えないといけないのかなぁ。

「美紀さんは……」

「え？　なぁに？」

「大学に行くのって、いつごろ、決めました？」

「そう、ね……。大学に行くのは、なんとなく決めてたわね。学科を決めたのは、三年になってからかしら」

「そうですか……」

「聖苗もそろそろ進路相談とか始まるのよね。大丈夫よ、大学だけで将来が決まるわけでもないし」

　あ、なんだか見抜かれちゃったみたい。いやな感じはしないんだけど。むしろ、焦らなくてもいいって言ってくれてるのかな。

「大学生って、どうですか？」

「どうって言われても……、入学式もまだだし」

「あ、そっか。そうですよね」

　言われてみれば、そうだ。でもなんだろ。今日の美紀さん、すごい女子大生って感じだから、つい勘違いしちゃった。

「美夕たちは、少し早めに大学生してるみたいだけどね。といっても、陸上部の練習に参加してるだけだけど」

「あ、稲本先輩たち、北陸の大学でしたっけ」

　福井県って、確か北陸だよね？　網島先輩と稲本先輩は、二人とも同じ大学に推薦で進んだって美紀さんが教えてくれた。

「やっと落ち着いたって言ってたわ。掃除も洗濯も大変だって。寮に入ればよかったかもって後悔してるみたい」

　そして、3月の終わりごろに引っ越しして、二人でルームシェアしてるって。二人暮らしかぁ。なんかいいなぁ。

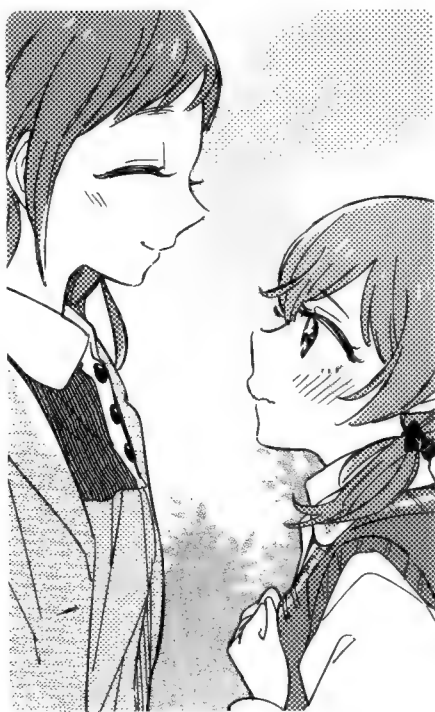
「そうそう、5月の連休に遊びに来ないって誘われたの。聖苗も一緒にって」

「え？　わ、わたしもですか？」

「ええ、どうする？」

「た、たぶん、大丈夫ですけど……」

う、うわぁ、それって、美紀さんと一緒に旅行？　す、すごい、どうしよう。先輩たちのところに行くわけだから、そういうんじゃないけど、な、なんかすごい、どうしよう。
「そう？　それじゃ、近づいたら予定、立てましょう」
「はい！」
　どうしよう、すごい、楽しみ。きっと、ゴールデンウィークだと、きっと選挙のこととか大変になってそうだけど、絶対行こう。
　テンションの急上昇をなんとか出し過ぎないようにしながら、美紀さんと並んで、おしゃべりしながら歩く。今日は、星館校舎には入らずに、その脇を抜けて奥校舎の隣にある花壇へ。
　美紀さんがずっと、最後の半年ちょっとはわたしも一緒に、世話をした花壇。学校中に植えられている花の植え替え用に、いろんな花を敷き詰めた花壇。美紀さんが卒業した後も、教えてもらったとおり、わたしが世話をしてる。けっこう大変だけど、なんとか枯らしたりしないで、今は春の花がちょうど見頃になっていて。その成果を美紀さんに見せられるうれしさがある。まぁ、玄関前とかにあるのとちがって、ちょっと不統一なのは仕方ないけど、そこがなんだかいいとこでもあるし。
「うわ、きれいに咲いてるのね」
「ええ！　春咲きのゼラニウムがちょうど咲き出したんですよ」
　今日、十株くらい、講堂前に出荷しちゃったけど。そっちもあとで見てもらおうかな。
「そう。聖苗、お疲れ様。ありがとう、ちゃんと世話してくれて」
「美紀さんに心配かけさせられませんから！」
「心配……、してたわけじゃないんだけど……。でも、やっぱり気になっちゃって」
　わかってます、美紀さん。別に、お姑さんみたいな気持ちで、今日、花壇が見たいって言ったんじゃないってこと。でも、ここはずっと美紀さんが世話をしてきた花壇だから。やっぱり気になるってのはわかる。うちのお父さんたちだって、よく、うちで仕事をした家を見に行ったりするもの。思い入れのある場所が、変わらずにいてくれるっていうのはきっと、とても安心できることなんだと思う。
　あ、そっか……。
「あ、あのですね、美紀さん」
「なぁに？」
「この花壇、今度の春から、各委員会で持ち回りで世話をすることになったんです」
「あら、そうなの？」
　3月の終わりの委員長会議で決まったことだった。発案者は風紀委員長の有遊先輩。
　委員長でもないのに指名されて出席した会議で、わたしは不意打ちでそのことを聞かされて、最初はびっくりした。それから、どうしようかとほんとに焦った。美紀さんの花壇を他の人にまかせちゃっていいのかって。でも、でも、有遊先輩はなんていうかその、とても周到だった。先生方や用務員さんたちとちゃんと話をつけていて、こういう花壇は学校側と一緒にちゃんと管理するべきだって。その上で、整備委員会を中心に、各委員会から当番を出して世話をするという提案をまとめてきていた。わたしが呼び出されてのは、美紀さんのかわりに承認をとるためだったみたいで。
　びっくりしたし悩んだのは確かだけど、有遊先輩の言うことももっともで。もっともっともなのは、美紀さんが卒業した今、わたしだけじゃとても世話しきれないかもってことで。だって、わたしには美紀さんみたいな園芸の知識はないし。でも、わからないからって美紀さんに聞いてばっかりも、もうできない。そこを見抜いた上で、有遊先輩は、わたしから花壇ではなく負担を取り除いてくれたんだってわかった。できれば、もう少しわかりやすく、びっくりしない方法で伝えてくれたらよかったんだけど。
「そう……」
　ただ、わたしはそれでよかったんだけど、美紀さんにこのことを伝えるのはちょっと不安だった。思い入れのある花壇だし、もしかしたらがっかりするかもしれない。わたしじゃ、美紀さんの花壇を守り切れないわけだし。
「よかった」
「え？」

「もしかしたら、この花壇が聖苗の負担になるかもって思ってたから」
「え、あ……、そんなこと……」
「ちょっと寂しいのはあるけどね」
優しく笑って、美紀さんはわたしの頭をなでてくれる。なんだか、涙が出そう。美紀さんの心配は本当だし、寂しいって思ってるのもきっと嘘じゃない。そのことをちゃんと伝えてくれた上で、よかったって言ってくれて、うれしい。一人じゃがんばりきれないのは本当だけど、わたしもちょっと寂しい。その気持ちが一緒で、うれしい。だから、涙が出てきそう。こらえるけど。

「あのね、美紀さん」
「うん」
「わたし、学生会長になりたいんです」
「うん。そう言ってたわね。立候補、するんでしょ?」
「ええ」
心の中でぼんやりとそう決めた時に、美紀さんには打ち明けていた。がんばってって言ってくれた。わたしならきっといい会長になれるって。

「この学校を、もっとみんなが好きな学校にしたいんです。卒業してからもずっと、変わってないってほっとできるような学校に、したいんです」
この学校から離れた後も、時々思い出して、よかったって思える場所に。久しぶりに来ても変わってないて安心できる場所に。変わらないのではなくて、変わってないって。うまく言葉にはできないけど。
「ええ、きっとできるわよ、聖苗なら」
「美紀さん……」
今日、美紀さんが感じてくれた安心感を、みんなにも持ってほしいから。
「あなたは、そういう気持ちを持って、動くことのできる人だから」
美紀さん……。うう、なんだかほんとにうれしくて泣きそう。どうしよう、涙がこらえきれなくなったら、抱きついてしまいそう。もう、ほんとに。このまま、ぎゅって美紀さんに抱きついて……。
「……み、美紀さ……」
そこまでだった。うらめしくなるくらい健康なわたしのお腹が鳴った。隠しようがないほど、はっきりと。
「……あら」
な、なんでこのタイミングでお腹が空いてること思い出すの、わたしは! 本能がうらめしい。
「ああああ~……」
「ふふ、お昼、まだなんでしょう? 美夕に教わったサンドイッチ、作ってきたの」
あああ、笑われてる。は、恥ずかしい。でも、美紀さんの手作りサンドイッチはすごい楽しみで、またお腹が鳴りそう。ああ、もう。
「ベンチ、借りましょう。ね?」
「……はい」
奥校舎の休憩所は、美紀さんの卒業の直前に、きれいに掃除して見つける前の元通りにした。

あそこは、美紀さんと二人の思い出の場所だから。わたし一人で使いたくはなかったから。ソファもきれいにして、前のように立てかけておいた。もしかしたら、誰かがまた、あそこを見つけるかもしれない。ソファも一緒に見つけて、一休みするかもしれない。それはいい。誰かと一緒に、おしゃべりしたりするなら、きっと、もっと。

そんな秘密の場所があって、奥校舎、星館校舎、講堂、雲見櫓、素敵な建物がいっぱいある学校。いつまでも変わらずにいてほしい場所。美紀さんは卒業してしまったけど、そんな素敵な学校で、わたしはあと二年、過ごすことができる。それはきっと、うれしいこと、楽しいこと。わたしは、もっともっと学園生活を素敵なものにするために、がんばれる。

「さ、行きましょう」

「はい！」

美紀さんと手をつないで歩き出す。

その瞬間。

四月になってようやく暖かくなってきた、午後の最初の風が、そっと、吹いて。

ほのかに、甘い香りを運んできた。

「え？」

振り返る。

花壇のひと隅に植えられた、二株の。薄い、ほのかにピンク色した細長く巻いたつぼみをつけた。不思議、まだ開いていないのに、香りが。それよりも……。

「どうしたの？」

「あ、いえ、なんでもないです」

誰かが植えたんだろうか。わたしの記憶にはないけれど。まだ花開く前の。

百合の花。

了

K★Rとは毎週水曜日にツイッターでやっていた、百合霊さんつぶやき情報である！
今回おまとめしたのは各キャラの入学間際のエピソードを集めたシリーズです。

KR

みんなの入学

■網島茉莉&稲本美夕

『稲本美夕1』美夕さんの入学基準はそんなに遠くなく、中堅以上の実績をもった陸上部があり、茉莉が一緒に居ること。「走れるならどこでもいいや」という茉莉さんを叱りつけながら、入学先を検討しました。

『稲本美夕2』数校をまわり、最後に見学した城女に決定。各種条件が合致したのはもちろんですが、茉莉と通学路の大半が同じになるのが最後のひと押しだったことを、美夕さんは今も秘密にしています。

『稲本美夕3』この時点で、やや学力高めの城女では茉莉が落ちる可能性があったため、二人は頻繁に勉強会を行なうようになりました。互いの家に行き来しだしたのもこの頃です。

『稲本美夕4』夫婦旅行の多い網島両親が不在の折は泊まりでの勉強会も行われ、そんな中二人はたくさん勉強したそうです。……様々なことをじっくりと。

『網島茉莉1』美夕に出会う前の茉莉は、走る以外のことには興味の薄い、退屈そうな子でした。競技時の活き活きとした様子と競技外の気怠げな態度は、まるで別人だと言われていたそうです。

『網島茉莉2』茉莉が美夕の事を意識しだしたのは、3回目の競技会での事。地区では負け知らずだった自分に肉迫し続け2着になった選手。茉莉は順位表で美夕の名前を確認し、綺麗な名だなと思ったそうです。

『網島茉莉3』美夕は、地区でトップの茉莉の走りを徹底的に研究。自分の走りのどこを伸ばせば追いつけるかを考え、実践。追われる茉莉はそのひたむきさに惹かれていき、ある競技会でついに告白します。

『網島茉莉4』茉莉は告白の様子を詳しく語りませんが、競技場が夕焼けに染まっているのを見て、今しかないと思ったそうです。告白以降、茉莉は常時陽気で楽しそうな、今の茉莉へと変わっていきます。

■古場陽香&有遊愛来

『古場陽香1』進学前の級友達によれば陽香は、ともかく普通だったそうです。友人たちと流行りの話をして、成績はちょっとだけ良く、目立つことは無くても忘れられる事のない存在感の、でも無趣味な少女でした。

『古場陽香2』陽香が城女を選んだ理由は近くて、城女を知っていたから。進学先といえば、小さい頃からよく名前を聞く九ツ星女子学園と思い込んでいたんだとか。

『古場陽香3』進学が決まり、卒業までの暇な時期のこと。陽香はちょっと大人っぽいことしてみようかなと、いつもは聞かない系統の音楽に手を出し覚醒。「あたしの生き方にはロックがなかった！」そう家族に宣言したそうです。

『古場陽香4』いつかやると思ってたとは父の言葉。春休み中、半ばヤケ気味につきあった母妹の助けもあってイメチェン終了。一番困ったのはヘアバンの位置で、入学後最初の遅刻理由もヘアバン位置で悩んだからでした。

『古場陽香5』同じく城女に進学した友人Kは当初無理してるんじゃないかと心配していたのですが、「まぁ陽香だし」が口癖になった今では以前の陽香が思い出せないそうです。

『有遊愛来1』有遊さんが進学にあたって一番重視したのは「特別な時間を過ごしたと思えそうな場所」。城女は親類に卒業生が居たこともあり、以前から気になっていた場所でした。

『有遊愛来2』合同見学日。学園を堪能し、此処しか無いと心に決めた有遊さん。お気に入りに深くハマる性格なので、正門の写真を携帯待受にして、起床時に1分眺めるという「楽しみ」にしていたそうです。この「楽しみ」は現在も続いていますが、待受画像は陽香との写真になっています。

『有遊愛来3』城女を見学した日、有遊さん達の先導を仕切っていたのは各委員会の面々でした。人員不足を補うためリレー式にガイドを配置するなど、不足を理由に仕事を疎かにしない姿勢に愛来さんは好感を持ちました。

『有遊愛来4』正門から玄関までを担当した風紀委員長と副委員長の「みなさんが入学した時に、私たちは居ませんが」と結ぶ城女伝統語りは、有遊さん委員会入りの動機となりました。

『有遊愛来5』進学前、所属していた生徒会に風紀委員入り希望を告げた時、全員から「風紀は似合いすぎ」と突っ込まれたとか。ちなみに有遊さん、副会長とか副委員長など実務的な位置が好きなんだそうです。

みんなの入学

■剣峰桐&園生月代

『剣峰桐1』桐さんがシロジョに来た理由は3つありました。一、数理特化クラスがある。二、桐ほどではないけれど、可愛いもの好きな母から女子校行って欲しいな～と言われた。三、大好きなカワイイもの紹介ブログの持ち主が城女生だった。

このシロカワ会初代会長はすでに卒業、桐は現副会長です。会長さんは月代ちゃんと会えなくなることが心残りだと涙したとか。

『剣峰桐2』シロジョカワイイもの会は謎の連絡会。メンバーは独自にランキングを持ち、時折会合を開いては悶えるという。少数精鋭がモットーで入会は招待制。

桐さんは入学式の日に会長と待ち合わせて入会するはずだったのですが……

『剣峰桐3』入学式。壇上で紹介された園生先生を見た桐さんは、自主的な起立を二度しかけ、ぐっとこらえて学生手帳を取り出し、メモページに「園生月代ちゃん!!!」と大きく記したとか。

『剣峰桐4』気を張り、その日の5割をなんとか正気で過ごしボンヤリと帰宅。お気に入りのヌイグルミを抱きしめてやっと「会長さんに会うの忘れた」と気づいた桐さんでしたが、会長も園生熱にやられ帰宅していたのでセーフでした。

『剣峰桐5』会長はこの後本当に熱を出し、桐さんの入会は予定より3日ほど遅れたそうです。これが、のちに「月代ちゃんショック」とシロカワ会で語り継がれる事件の全貌です。めでたしめでたし。

『園生月代1』春休み前、教員寮に引っ越してきた月代ちゃん。こじんまりした家が3棟並ぶ独身寮。待ち構えていたお隣さん、数学教師と体育教師の助けで引越し作業は無事終了。一癖ある同僚達と仲良しになります。

『園生月代2』年の近い数学教師は観察家。面白そうな事を見逃さない性格。「体弱いんだね。キツイ時はちゃんと言ってよ」など単刀直入な物言いが不快にならない人。少し年上の体育教師は寡黙で優しい趣味人です。

『園生月代3』学園に赴任挨拶へ行った月代ちゃんは、かなり年上の教師たちから孫のように可愛がられるという問題に直面。持っていった以上のお菓子を持たされて帰宅することになります。

『園生月代4』落ち込んだ月代ちゃんの相談を受けた数学教師は「自分の時は娘扱いだった」と笑い、体育教師は良いお茶を出しながら「数日でよくなるよ」と言い聞かせます。その言葉の通り、数日で孫扱いはぱたりとやみます。

『園生月代5』月代ちゃんの監督担当になった国語の老教師が職員室で滔々と説教したからだという噂ですが、詳しいことは判っていません。穏やかな老教師と園生ちゃんは時折一緒にお出かけするほどの師弟になりました。

『園生月代6』入学式。就任挨拶の緊張でフラフラの園生先生にお茶を出し、笑い飛ばし、そっと背中を押した同僚たちは満足気だったそうです。

その後彼女が、本当に沢山の大事な人達に出会う事になるのは皆さんご存知の通り。

■一木&双野&三山

『双野沙紗1』入学式当日の朝。沙紗さんがめくったタロットカードは「運命の輪」の正位置。三日連続同じカードという滅多にない引きでしたが、沙紗さんは「こんな事もある」と冷静を装い家を出ました。

『双野沙紗2』待ち合わせ場所で一木母の車に乗った沙紗さんは、隣に座った羽美の制服姿に動揺します。今日は落ち着いた感じで行くと意気込み、背筋を伸ばしてお澄まし顔の羽美が、とても新鮮に見えたのです。

『双野沙紗3』羽美の決意は2分ほどで崩れ去り、音七も加わった車内はいつもの会話で満たされました。式の間だけツインテールにしようと絡んでくる羽美をあしらいながら、沙紗さんは今朝のカードの事を思い出していました。

『双野沙紗4』城女に到着した沙紗さん達は、早速、正門櫓の下で記念撮影に興じます。時折、風が舞い上げる桜の花びら。やっぱり華やいだ雰囲気って自分に合わないと思う沙紗さんの目の前を、一片の桜が横切りました。

『双野沙紗5』桜は羽美の髪にとまり、沙紗さんは、はしゃぐ羽美に声をかけ指で花をつまみました。羽美は「いいね！嬉しいね！」と笑い、沙紗さんは声無く頷き返しました。自分の膝が震えていたのを覚えているそうです。

『双野沙紗6』入学後、羽美は今まで以上に活発に動き沙紗さん達は引っ張り回されます。放送部入部、天文部の救援など、先頭に立つ羽美の輝きが、眩しすぎると感じる理由。それを恋だと自覚したのは次の桜の頃でした。

『一木羽美1』羽美達が城女を選んだのは羽美さんの強引なプッシュで！ではなく、話し合いの末の決定でした。羽美さんは沙紗音七と一緒に居たいけれど進路は……と我慢。逆にウザイ、怖いと言われるくらい主張しなかったそうです。

『一木羽美2』3人の志望先を伝え合うと決めた日、行先が同じと知った羽美さんは力が抜けて立てなくなったんだとか。その後、成績面で不安のある羽美・沙紗のため、(音七にとって)地獄の勉強会が続いたそうです。

『一木羽美3』入学前の休み中、3人は4日間の卒業旅行に出かけます。目的は「なんでも見てみよう!」。発案は当然羽美。宿泊先だけ決めて、ひたすら移動。途中で見かけた面白いものに突撃という旅でした。

『一木羽美4』旅行中、3人は旅レポートを撮りました。羽美がレポーター、沙紗がツッコミ、音七が撮影。アバウト史跡紹介、チープグルメレポート、温泉紹介に寝起きドッキリなど色んな意味でお宝画像満載にだったとか。

『一木羽美5』持ち帰った映像は羽美監督のもと沙紗がナレーターを務め、音七が編集し一本の作品となりました。羽美宅で行われた上映会は盛り上がり、3人は入学後は放送部に！と約束を交わしたのでした。(この旅行映像が後に放送部の危機を救うことになるとは……)

『三山音七1』音七さんが城女を選んだ理由は2つ。一つは羽美と沙紗は城女を選ぶだろうと思った事。それぞれ変わったロケーションを好む友人達が、お城の学校に食いつかないわけがないだろうと考えました。

一本の作品となりました。羽美宅で行われた上映会は盛り上がり、3人は入学後は放送部に！と約束を交わしたのでした。(この旅行映像が後に放送部の危機を救うことになるとは……)

『三山音七1』音七さんが城女を選んだ理由は2つ。一つは羽美と沙紗は城女を選ぶだろうと思った事。それぞれ変わったロケーションを好む友人達が、お城の学校に食いつかないわけがないだろうと考えました。

『三山音七2』二つ目の理由は大座敷が気に入った事。音七達が見学に訪れたのは冬。大座敷に置かれたコタツで受けた説明会の寝心地に、ノックアウトされたそうです。説明はあまり聞いてませんでした。

『三山音七3』進学後の冬、音七さんは大座敷のコタツを満喫。ほぼ全ての放課後に通いつめ、ついには「第二放送室」と名付けたとか。「ここで寝るために入学した」と言われた羽美と沙紗は「知ってた」と答えたそうです。

『三山音七4』入学後、音七さんの周囲に緩やかな変化が起こります。まず、沙紗がなんか変。羽美以上にパワフルな放送部部長との出会い。そして不思議な忘れもの魔、阿野藤と仲良くなったこと。

『三山音七5』沙紗の変調が、羽美への恋だと気づいたのは、阿野から借りたギャルゲーをプレイしている最中だったとか。音七さんは大きく驚くことなく「まぁ、羽美なら惚れるよなぁ」と納得したそうです。

■相原美紀&牧聖苗

『相原美紀1』相原さんと城女の出会いは、小学生の頃に祖母と行った園芸展。園芸部出展の美濃菊に心惹かれた相原嬢は、パネル説明で九つ星女子学園を知り、強い憧れを抱いたそうです。

『相原美紀2』時は経ち、進学時期を迎えた相原さん。進路相談では迷わず城女の名前を挙げて、彼女を頑張り屋だけど優柔不断だと思っていた担任を驚かせます。秘めた気持ちは一途で頑固な人なのかもしれません。

『相原美紀3』入学後、園芸部へと向かった相原さんは部員数確保に窮した部が整美委員会と合体、下部組織となったのを知ります。ショックで固まった相原さんを、部長兼委員長だった柿崎は笑いながら両方に勧誘したそうです。

『相原美紀4』無理やり始まった整美委員兼園芸部の生活に相原さんは素早く順応。夏前には「整美委員の相原」と言えば教員全員が知っている程になり、資料探しは相原に聞くのが一番だと評判になります。

『相原美紀5』几帳面な相原さんは、仕事の度にメモを取り、委員会報に情報をまとめあげました。通称「相原文書」は委員会活動のバイブルとされ、当時の新聞部に相原の献身と共に校内に紹介されます。

『相原美紀6』この新聞以降、相原に「聖女」と言う冠がつき、夏合宿・学園祭での働きを経て揺るがないものになります。本人はとにかく恥ずかしいので嫌だなと思っていたそうです。

まだまだつづくよ!

みんなの入学

『相原美紀7』 柿崎委員長は卒業にあたり、委員が持っていた花壇を拡張、相原へプレゼントしました。相原の勤勉さがいつか大きな実りに繋がって欲しいという柿崎の願いが叶うのは、もうしばらく後のことです。
（柿崎さんとは今も交流があります）

『牧聖苗1』 工務店経営の父母と兄二人。ガテン系な家庭に育った牧さんの進路基準は女子校。行き先は見学時に門構えに惚れ込んでしまった城女。成績はギリクリアだったものの、母と父は難色を示します。

『牧聖苗2』 会計を仕切る母・綾は、近所にもっと学費の安い女子校があると言い、父・昴一は、金はともかく少し遠いので行き帰りが心配だとこぼしたそうです。困った聖苗さんに助け船を出したのは兄達でした。

『牧聖苗3』 大工修行中の長男・晶は、女子校とか聖苗に似合わねーと笑いつつ、貯めていた新車の購入資金を学費にあてると宣言。親の役目を奪うなとかなんとかで父といつもの喧嘩をしつつ、通帳を母に託します。

『牧聖苗4』 建築士の卵である次男・敬は、聖苗なら大丈夫だよと静かに言い、その上で遅くなる時は必ず連絡するなど、いくつかの取り決めをしておこうと提案。聖苗は家族と約束を交わすことになります。

『牧聖苗5』 約束をまとめると「ちゃんとやれ」になりますが、念をおされたのは「つまらない喧嘩はするな」という条項でした。何事にも真っ直ぐ突撃しちゃう聖苗さんは、結構定期的にやらかしていたそうです。

『牧聖苗6』 ほぼ義侠心が発端とはいえ、大工道具をおもちゃに育った、力持ちの聖苗さんのやらかしは派手になることが多かったとか。聖苗さんもこの点は反省し城女生になれたら抑えていこうと誓ったそうです。
（誓ったけど、あの事はつまらなくないのでノーカウント！）

■遠見&狛野&阿野

『狛野比奈1』 比奈が城女に行くと宣言したのは、遠見狛野家の合同夕食時だったそうです。狛野家（主に狛野母）が遠見家に願書提出済みを秘密にしていたので、結奈はかなり驚いたとか。

『狛野比奈2』 不得意な教科があった比奈でしたが、結奈が家庭教師としてつくことで弱点を補います。この期間、運動後の方が集中しやすい比奈に付き合って結奈もランニングし、かなり体力がついたそうです。

『狛野比奈3』 勉強には阿野も付き合うことがありました。担当は阿野が比較的得意な英語。この時、阿野が作成したテキスト「お肉で覚える英文法」は比奈に大好評。やたらお腹が減る欠点はありましたが役に立ったそうです。

『狛野比奈4』「比奈ちゃん先輩」と運動部後輩から慕われていた比奈。卒業式では特に親しかった後輩3人から「必ず城女に行きます」とすがり付いて泣かれ、再会を固く約束するまで離してもらえなかったそうです。
（運動部後輩達のうち二人は、この春シロジョに入学しました）

『狛野比奈5』 入学式当日に陸上部入部届けを出すという荒業をやってのけた比奈でしたが、部活開始は新人編入期間まで待たされることになりました。

『狛野比奈6』 暇を持て余した比奈は、この数日を城女の探検に費やしたそうです。進行ルートはかなりワイルドかつ、そもそも道では無かったり。この探検が後に聖苗と仲良くなる切っ掛けになったりしています。

『遠見結奈1』 手伝いがあると家から近い順に進学先を決めていた結奈さん。彼女が突然第三候補の城女を本命とした時、周囲はかなり驚いたそうです。

『遠見結奈2』 卒業前に行われた料理部の送迎パーティーは、後輩とのレシピ交換などで盛り上がったそうです。3年間で創部から大会優勝を成し遂げた伝説の部長だけあって人気は絶大。泣く後輩達をなだめるのに二時間もかかったとか。

『遠見結奈3』 パーティー中、副部長や部員達に城女変更の理由を聞かれた結奈は「城女なら通学路にスーパーがあるから」と説明。友人の副部長は「まあ、結奈らしいよね」としながらも釈然としない様子だったとか。

『遠見結奈4』 別学に行った副部長は、そこでも料理部に入部。時折、連絡を寄越しています。現在は部長として活躍中。結奈とコンビで剛柔の役割を分担していたためか、部員のまとめあげに苦労しているようで連絡も相談が主のようです。

『遠見結奈5』 入学までの休み期間。結奈は地元のマラソン大会に出場した比奈をサポート。

アスリート向けの食事を意識するようになりました。この時の経験は比奈進学後のお弁当などに活かされています。

『遠見結奈6』 入学後、忘れ物やらで友人になった阿野は、世話好きを封印した結奈のささやかな安定剤に。しかし、休み時間や、人の動きが多い昼休みは世話のタネが目に入りすぎ、結奈は静かな場所を探すようになり、やがて屋上を訪れるようになりました。

『阿野藤1』 阿野は小学校卒業と同時に城女のある地方へやってきました。新天地で行ったのはゆるキャラデビュー。円滑な人付き合いをするため、彼女は掴みどころのない愛想良さを押し出していきます。

『阿野藤2』 お気に入り漫画の登場人物をベースにキャラを設定。これが想像以上に成功、赤面し俯いているだけだったのが嘘の様に交友関係の広い新・阿野藤が誕生。キャラ作りには従姉妹の阿野由夢（ゆめ）さんが力を貸しました。

『阿野藤3』 由夢は東京で一人暮らし中。滅多に笑わず目つき鋭い女性です。創作に入ると他の事を忘れてしまうため、藤などが持ち回りで様子を見に行く必要があるそうです。後に出会う結奈比奈の第一印象は黒い阿野藤。

『阿野藤4』 進路決定の時期、阿野が条件としたのは「女子校」と「変わった場所」。女子校は告白避け。中学では少なくない告白を受けた阿野さんですが、自身は恋愛からっきしで、断る気苦労が多かったそうです。

『阿野藤5』 変わった場所を求めたのは、目立ち気味の容姿と特異な特技を目立たなくするため。キャラを被ったとはいえ、注目を浴びると疲れる。ならば変な場所で変な人に紛れれば楽かもと考えたそうです。

『阿野藤6』 由夢から「そんな即売会みたいガッコあるか！」と突っ込まれつつ集めたパンフは十数校。当時嵌っていた作品の影響で寮のあるタイプ目指していたのですが、様々な条件が折り合わず決定は難航します。

『阿野藤7』 そんな時期、地元でお茶屋を開いている親戚と話す機会があり、阿野は変わった学校の情報はないかと質問。即答されたのが城跡にあり女傑が多いという商科九ツ星女子学園、通称シロジョでした。

『阿野藤8』 改めて取り寄せたパンフを見て藤は城女に惚れ込みます。ここならきっと自分はそんなに目立たない！　はず、たぶん。由夢は話を聞いて「藤、絶対に合格して報告（ネタ）をくれ」と懇願したそうです。

『阿野藤9』 入学前の休み、阿野は帰省していた由夢と城女の偵察に訪れました。夕焼けの正門前で「いいね…」と固まった由夢さん。いつもの事だからと諦めた阿野に白マスクの女が話す掛けてきたそうです。

『阿野藤10』 背の高いマスク女は城女の3年。撮りに来る人よく居るんですよと二人の記念撮影を手伝い去っていきました。彼女が一年中マスクをつけている漫研部長だと判ったのは入学後、部活説明会の時です。

『阿野藤11』 入学後。阿野は「一年生に姫っぽいのが居る」と噂され困ることになります。休み時間のたびに覗きに来る上級生。お守りにと写真をせがむ同級生。愛想の良さが裏目に出て、その数は一向に減りませんでした。

『阿野藤12』 この「阿野姫祭」は五月中旬に終息。これは結奈がやんわりと来訪者をいなし続けたのもありますが、文化部連による自粛運動が功を奏したと言われています。（あのシロカワ会からの保護要請もあったという噂）

『阿野藤13』 自粛運動は漫研の要請で始まったそうです。漫研に入るのが憧れだった阿野は説明会後、すぐに入部。マスク部長こと諏訪先輩と再会「運命ですね」と意気投合。由夢に継ぐ師匠として慕うようになります。

『阿野藤14』 阿野と結奈はこの頃一層仲良くなり、級友にも明るい阿野としっかり結奈というコンビで見られるようになりました。城女以前の結奈の活躍は噂で聞いていましたが、阿野からは話題に出さずにいたそうです。

『阿野藤15』 林間学校の肝試し。教師たちの凝り過ぎでリタイアが続出する中、二人は渡されたコップの水をこぼすこと無く完歩。このままだと目立つからとゴール直前で水を半分捨てたりしています。二人だけの秘密です。

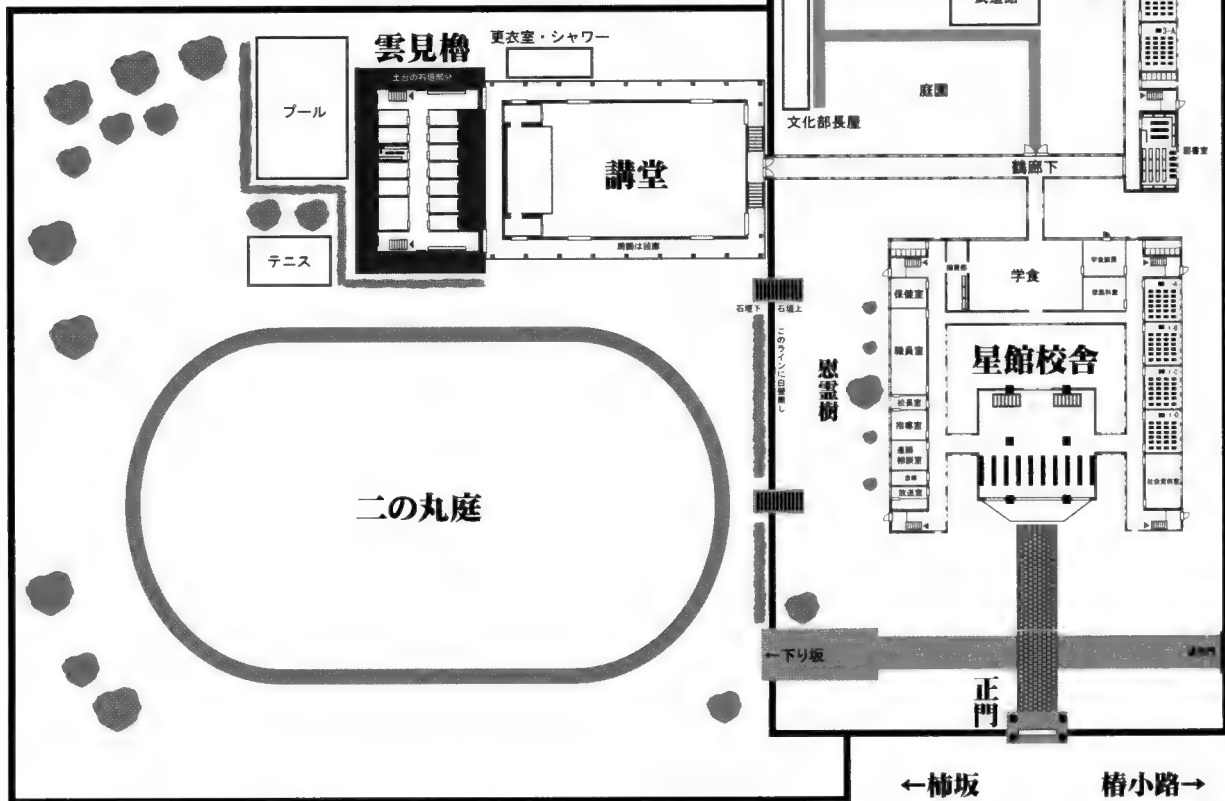
『阿野藤16』 由夢さんへのネタ報告は順調に続き、それを元に作ったお話は阿野の同人デビュー作になりました。漫研には内緒で別日発行した本を買いに来た最初の人はコスプレした諏訪部長だったそうです。

『阿野藤17』 驚く阿野に、諏訪は自分が有名コスプレイヤーで自衛のため普段はマスクをつけている事と、実は由夢の大ファンであることを告げます。以来、諏訪は由夢さんのサークルに加わり活動しています。阿野は諏訪を「城女でもっともタヌキな人」と恐れています。

今回はここまで！

yuri-rei 2013 spring

商科九ツ星女子学園

※位置関係確認用の配置設定なので各縮尺は適当です。

ツイッターではK☆Rの毎週水曜日以外にも突発的に情報を流すことがありました。「園生先生の課外授業」もその一つ。先生が教えてくれたあんな事こんな事をまとめてみました。学園図と一緒に御覧ください。

■お城について

それでは私達の学び舎についてお話します。学園が建つお城の正式名称は「七峰城」。平野を見渡し周辺七峰を見渡せたのが由来という説と、周辺の七士族が共同で作ったからという説があるそうです。

お城が現在の形、二つの城郭と石垣になったのは安土桃山時代だそうです。領主になった竹宮氏が石垣を築き、小さな天守閣を持つ山城にしました。理事長の竹宮さんは、この竹宮氏の子孫にあたります。怖そうですけど気さくな紳士さんですから見かけたら挨拶してね。

お城には門が3つあります。一つは皆さんが使っている大門。もう一つは職員用駐車場へいく北門。最後の一つは知らない人も居るかもしれませんね。奥校舎の向こう、西側の白壁にある小さな門、追立門です。

追立門は頑丈な鍵とかんぬきで閉鎖されています。この門の外はなんと崖。実はこの門、鬼を追い出すために作られた二七の門なんですって。今でも年明けに、竹宮家の人が集まって開門をして鬼を追い出す行事があるそうです。是非一度見てみたいなあ。

■部活について

今回は部活動についてです。

城女では運動部が十、文化部が二十ほど活動しています。昔は五十近い時期もあったそうですが、最近では減少傾向にあります。所属学生は全校生徒の半分ほどです。

運動部は陸上部、剣道部、弓道部、水泳部、テニス部、バドミントン部などがあります。

大所帯なのは陸上部。放課後に校内運動している学生は大抵陸上部員なんだそうです。狛野さんと北村さんは本当によく走ってますね。

サッカー部やソフトボール部は学外に練習場があるため放課後になるとぞろぞろと行進していきます。

城女運動部は中堅以上の存在として県下に知られています。柿坂のお陰で足腰が鍛えられてるせいって言う人もいるんですよ。

奥校舎近くにある武道場は、元お城だけあって広くて古い建物です。剣道・柔道・薙刀など各部が日替わりで使用していて放課後は賑やか。でも、昼間は逆に静かなので間ノ宮先生が昼寝に使っていたりします。

文化系は最大派閥の演劇部を筆頭に、美術部、漫研、手芸、パソコン部、英会話に数理部など、とっても楽しい部活が揃っています。部員数下限の規定がないので顧問さえみつければ新しい部活を立ち上げることも可能です。

でも活動実態がなければ休止させられるので、やっぱり人数は必要ですね。

大半の文化部は大瑠璃長屋とも呼ばれる文化部棟に部室を構えます。青色の格子が綺麗な建物で、大中小に区切られた部屋では文化的な子たちが文化的な事をしているはずです。たぶん。

例外な文化部もいくつかあります。

例えば、軽音部は通用門外の教員駐車場にあるガレージを使っています。今の子達は……えっと、自称腕白ビジュアル系？でマニアックなファンを集めています。

■城女の食事情「購買」

城女の昼食は購入組と弁当組の2パターン。購入組は「学食」「購買」2グループに分かれます。

購買グループは学食横にある購買部でのお弁当、パン、飲み物の購入を行います。昼休みはパン屋さん、お弁当屋さんが売来てくださいますけど、とっても混雑するので有名です。たくさん持ってきてくれているから、落ち着いて慌てず買いに行ってくださいね

パン屋さんは、菓子パンの他、食パンを一枚から売ってくれるサービスもやっています。

地元名産の各種ジャムも別売りで販売。時々、羽美さんと沙紗さんが複雑な味をブレンドして痛い目にあっていますね。ちなみに先生はマーマレードが好き。剣峰さんはイチゴがカワイイそうです。

もう一つ購買で売っている食品といえば「アイスクリーム」。校内で買える数少ないお菓子で食後のデザートとして人気です。

アイスボックス上の箱は学生有志が置いた人気投票箱があります。毎月開票されて、新アイス納品の指標にされてるんです。お陰でかなりバラエティと変化に富んだボックスになっています。

この投票、何故か風紀委員が管理しているんですって。

■城女の食事情「学食」

星館校舎1階にある学食は城女で最も賑やかな場所です。

雑談や自主学習などでも使われるので、いつも誰かが居ます。当然、一番混むのは昼食時。食券カウンター前に行列が出来るのも珍しくありません。

提供されているメニューはレギュラー十五品前後。うどん・おそばや肉・魚定食を、学食職員の皆さんが心をこめて作ってくれます。

この定番に、季節・日替わりメニューなどが加わって、飽きの来ない工夫がされています。

最近人気なのはオムライスプレート「おっぷれA」です。三百円でふわふわのオムライスが食べられますよ。量がカップ増量で対応してくれます。……でもDカップとか言うのはちょっと恥ずかしいですね。

※授業補足：「おっぷれ」の初出は店舗特典ドラマCD「キュウセイラジオ第ゼロ回」。セクハラ調理主任考案の栄養バランス抜群メニュー。名前の由来は形状からです。

また、昼過ぎから午後五時までなら無料で飲み物も貰えます。杏里主任のサービスなんですって。
こだわりの紅茶や珈琲はかなり美味しくて、先生もよく々利用します。有遊さんはこの時間帯の常連で紅茶を飲んで休憩してるのを見かけますね。大人っぽい子なので、ティーカップが妙に似合っていて、ちょっと悔しいです。

放課後学食の常連と言えば阿野藤さんもですね。部活仲間と話し込んだりゲームしたり。顔広い子なので色んな人が入れ替わり立ち替わりやってきます。あんなにお菓子並べてるのに太らないのは城女の七不思議だと先生思います。

■夏合宿について

今回は夏合宿についてです。夏休み中に学内施設での宿泊を許可する城女伝統の行事です。
参加は部活だけと思われがちですが、3人以上であれば無所属の申請も可能です。3年生が自習合宿として使う事もあるんですよ。

宿泊施設は人数と期間順に割り振られます。
陸上部は大所帯なので雲見櫓の大部屋、放送部は部室泊という具合です。変わりどころだと演劇部なんかは部室長屋前にテントを張って寝泊まりしてます。暑くないのかな？ 大丈夫？

合宿中の食事は基本的にそれぞれ学生や保護者が準備します。
学食職員の方が交代で監督について下さってますが、料理の技量について滅多にアドバイスはくれません。杏里さんのお話では「美味しいもマズイも、いい思い出だよ」ですって。

合宿参加者、または参加代表は1日の最後に活動報告書を合宿本部に提出する必要があります。学校行事なのでこのくらいはしょうがないですよね。そして先生はみんなの報告書を読むのが大好きです。早めに提出してね。

お風呂は講堂横にあるシャワー室を使います。大浴場はグループごとに決められた時間に利用。最初の組は浴槽に入れられる入浴剤を選べるのでちょっとお得です。
お風呂の掃除は運動部が持ちまわりで担当します。キツそうだけど、掃除当番の部は使用時間を指定することが可能です。
水泳部は練習前に水着でさーっとやっちゃうんですよ。

合宿夜は午後十一時消灯になっています。
消灯以降は基本外出禁止です。でも、それぞれの部活には肝試しの日があって、その時だけは深夜外出が認められています。
人気コースは職員駐車場横から石碑への道。本当に暗いので注意して楽しんでね。
詳しくは合宿手引書を読んで下さい。
楽しくて有意義な夏を過ごしましょう！

■卒業式について

きりーつ、礼、着席。
今回は先日行われた卒業式についてお話します。

卒業生は袴を着て出席します。
袴はクラスごとに揃いのものが学園からレンタルされるんです。2月に入り、衣装合わせが始まると、そろそろなんだなって実感します。胸元には梅か桃のコサージュが付くんですよ。

式当日。3年は制服で登校し雲見櫓で着付けを行います。
着付けが出来る在校生はお手伝いとして参加できるので、憧れの先輩に触れたいって子が勉強して紛れ込んだりします。毎年一波乱あると評判の賑やかな準備時間です。

式自体はオーソドックスなものです。
在校生の出席は基本自由。部活や委員会学生の参加が目立ちますね。在校生は制服での参加が義務になっています。狛野さんの制服姿を本当に久しぶりに見ました。剣峰さんが騒いでました。

式後は制服に着替えて教室へ。最後のHRを経て卒業生は巣立ちます。学園内の色んな場所で記念撮影が行われる時間です。
一番人気は正門前かな。網島さんは撮影待ちの列が出来るほどの人気でしたよ。

迎えて見送る側になって二度目の式典。その場では大丈夫だけど、家に帰って一息つくとグッときます。

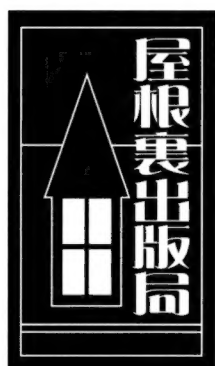
先生ありがとうございました!

睦月たたら

ひゃっはー。牧美紀はきらいです。特に美紀はきらいです。理由は、シナリオ書いてる時に詰まった回数。だから、結奈もきらいです。ひゃっはー。
最近、Borderlands の Co-op プレイにハマっているため、感嘆詞が全部ひゃっはーになっています。ひゃっはー。ユリトピアで何を言ってるんでしょうね、私は。ひゃっはー。

といてんつ

たたらさん、あなたサフィズムのアイーシャの時も同じこと言ってたよ！ 牧美紀は出番が長いから、その分苦労させられたんですね。ありがとうございました。ひゃはー。
さて4冊目のレシピです。ついに一巡りしてしまいました。こんなに続けられるとは思っていませんでした。もっとこうしたかったとか、そんな気持ちはあるのですが、それでもちょっとした達成感に浸っています。おだてられれば空も飛ぶ人なので、なにもかにも皆様の声に支えられればこそだと感謝の念が絶えません。たたらさん、Pegさんも協力して頂きありがとうございました。なにもお返しできてなくて申し訳ないです。
ずっと一緒に楽しんでくれた方はもちろん、最近はじめましたという方も居て本当にありがたい。感想はつぶさに読ませて頂いてますよ！ これからも頑張って参りますので末永くよろしくお願い致します。それでは皆様にサチと恵がありますように！

百合霊関連の総合情報ブログはじめました。「ユリトピアース」 http://yurirei.chu.jp/sirojyo/

発行日： 2013年5月26日
発　行： 屋根裏出版局
発行者： といてんつ
印刷所： 緑陽社様

「屋上の百合霊さん」の本

2013 vol.4

屋根裏出版局